

協議事項11

学校図書館の活用状況と読書推進について

学校図書館の活用状況と読書推進について、次のとおり提案する。

令和8年7月24日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長 竹森 永敏

学校図書館の活用状況と読書推進について

1. 学校図書館の利用状況

(1) 利用人数・貸出冊数

- ・児童生徒一人当たりの学校図書館利用状況（2025 年度（令和 7 年度））

	貸出回数	貸出冊数	休み時間の 利用回数
小学校	21.8回	33.7冊	6.1回
中学校	1.7回	2.7冊	5.7回

- ・貸出冊数は小・中の差が大きいですが、授業以外での図書館の利用回数の差は小さい
→小学校は「図書の時間」があるため、授業時間中に借りる児童が多い
→授業以外での学校図書館の利用については、小・中学校で差がない

2. 学校図書館の活用

(1) 学校司書の配置

- ・2023 年（令和 5 年）4 月に全小中義務教育学校 243 校に 150 人を配置完了。
- ・業務内容は、学校図書館の整備・運営、学習支援、読書推進、図書委員会活動の支援など。
- ・大規模校には専任配置、その他の学校へは 2 校兼務により配置。

小学校（161 校）：専任 42 校・兼務 119 校

中学校（80 校）：専任 11 校・兼務 69 校

義務教育学校（2 校）：専任 2 校

※特別支援学校 6 校、高等学校 8 校に学校司書を配置していない

- ・学校司書の任用

身 分：会計年度任用職員（パートタイム、特定事務）

勤 務：原則週 5 日、1 日 5.5 時間（休憩時間除く）、

1 日 7 時間以内かつ 1 週間あたり 20 時間以上、

年度内で 1,000 時間以上 1,100 時間以内、200 日以内。

給与等：時給 1,683 円（R8.7 現在）、 期末・勤勉手当、通勤手当あり

（２）蔵書の充実

- ・ 全校に配置された学校司書や、司書教諭、図書館担当教員、担任等の連携の下、読書や授業に必要な図書の購入と廃棄を進めている。
- ・ 学校図書館図書標準※¹や標準配分比率※²を踏まえながら、児童生徒の発達段階や興味関心、テーマごとのバランスなどを考慮して、蔵書の充実を図っている。

※¹ 文部科学省が定める、学校図書館に備えるべき標準冊数。学級数により変わる。

※² （公社）全国学校図書館協議会「学校図書館メディア基準」による、分類ごとの冊数比の目安

- ・ 新たに購入した蔵書を中心に、データベース化を進めている。（図書館システムは導入していない）

（３）授業での活用

- ・ 学校司書の配置や蔵書の充実により、全教科において学校図書館の授業利用が進んでいる。
- ・ 学校司書は教員と連携して、並行読書（単元に関係する著者やテーマの本を複数読むこと）や関連資料の提供、読み聞かせや資料紹介、参考図書類の利用案内、調べ学習支援、情報リテラシー育成支援等を行う。
- ・ WiFi が整備され、紙の資料と学習用タブレットを併用した探究学習・調べ学習を実施。

3. 読書推進の取り組み

(1) 各校での取り組み

- ・学校司書を中心に、教員、図書委員、児童・生徒、ボランティアなどが、それぞれの学校の状況に合わせて多くの読書推進企画を実施している。内容は図書館や本に興味を持たせるもの、来館・貸出を促すものなど様々。

《取組事例》

○学級文庫や学年スペースの充実

学校で一番身近にあるため、定期的に更新して興味喚起。児童生徒が選ぶこともある。

○「一人一冊」運動

手提げや机に本を1冊入れておき、すきま時間を読書に活用する運動

○電子図書館の利用

2025年（令和7年）7月より、中央図書館と連携し、学習タブレット用IDで「神戸市電子図書館」の読み放題コンテンツの利用を開始。インターネットがあれば夜間や休日にも利用可能。2026年度（令和8年度）は約1,100点。

○児童生徒による選書

子どもたちからのリクエストや、書店に行く、又は書店から学校へ本を持って来てもらい、試し読みをすることで学校図書館に置いてほしい本を、子どもたち自身で決める。

(2) 研究指定校事業「読書習慣の定着化」

- ・読書習慣の定着を図り学力向上の基盤をつくるため、2026年度（令和8年度）より小中各1校（室内小学校、横尾中学校）を研究指定校とし、読書習慣定着のための取組を検証していく。

《取組事例》

○市立図書館への訪問

全員が図書館カードを作成し、本を借りる体験をすることで読書習慣を醸成

○図書館資料の授業利用

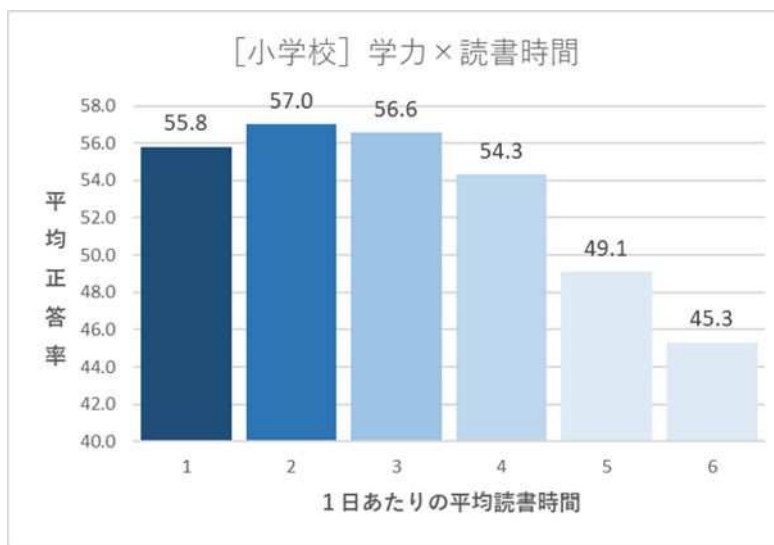
教科書、ワークシート、図書館資料、タブレットを併用した学習で学びを深める

○年間を通じた読書アンケート

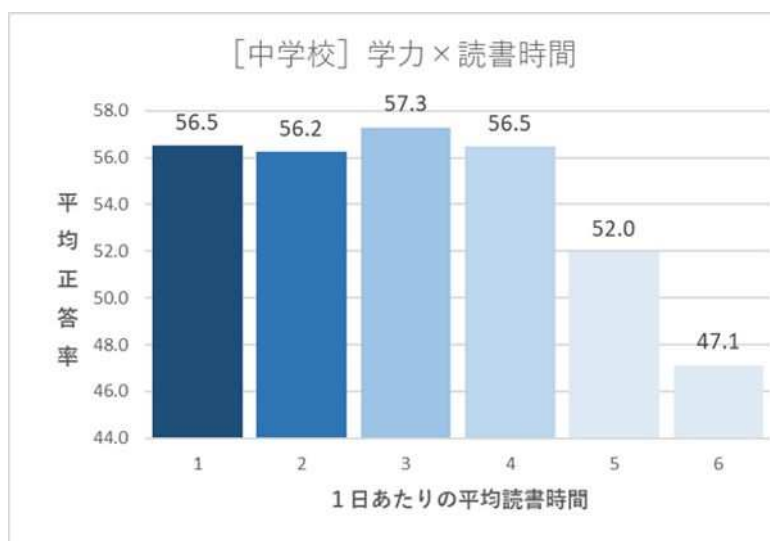
4. 読書と学力との関係と今後の取組

- ・学力について、読書時間と学力の間に一定の相関関係が見られる。(2025 年度（令和 7 年度）神戸市学力・学習状況調査より）
- ・一方で、スマホ・SNS の普及など様々な要因により、児童生徒が十分な読書時間を確保できなくなっている現状があり、これまでの取組を検証しながら、より効果的な読書推進施策を展開していく。

○読書と学力の相関関係（2025 年度（令和 7 年度）神戸市学力・学習状況調査より）



- 1 : 2 時間以上
 2 : 1 時間以上、2 時間より少ない
 3 : 30 分以上、1 時間より少ない
 4 : 10 分以上、30 分より少ない
 5 : 10 分より少ない
 6 : 全くしない
 〈調査対象者数〉
 小学校 : 22,588 人（4・5 年生）



- 1 : 2 時間以上
 2 : 1 時間以上、2 時間より少ない
 3 : 30 分以上、1 時間より少ない
 4 : 10 分以上、30 分より少ない
 5 : 10 分より少ない
 6 : 全くしない
 〈調査対象者数〉
 中学校 : 19,903 人（1・2 年生）

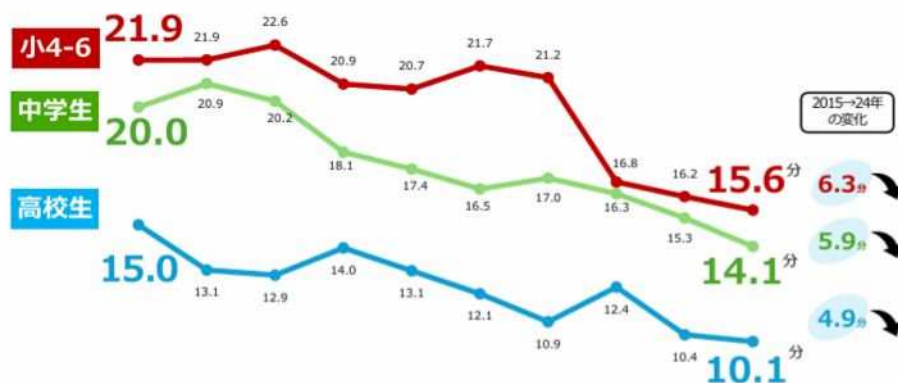
○児童生徒の読書時間の推移

2026 年（令和 8 年）2 月 9 日 文部科学省 教育課程部会国語ワーキンググループ（第 5 回）

資料 2 「学習内容に関する課題を踏まえた検討～知識及び技能に関して～」より

(https://www.mext.go.jp/content/20260209-mxt_kyoiku02-000047065_04.pdf)

いずれの学校段階でも読書時間は減少傾向 参考資料



【2015 年度→2024 年度の変化】

(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2015～2024」

- ※「あなたはふだん「学校がある日」、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答(%)。
- ※2023年以降は「本を読む(電子書籍を含む)」。
- ※「しない」は0分、「5分」から「4時間」はそれぞれ、5分から240分、「4時間以上」は300分を割り当てて平均値を算出した。

10

1日の読書時間が0分、半数以上 参考資料



(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2024」

- ※「あなたはふだん「学校がある日」、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答(%)。
- ※「2時間以上」は、「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。
- ※平均時間は「しない」を0分として算出。

11

【1日の平均読書時間 (2024 年度)】